

平成21年度第3回（第10回）磯辺地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成21年10月26日（月） 10時～12時

2 場 所 磯辺地域ルーム（磯辺第一中学校内）

3 出席者

- (1) 委 員 21人
欠席：亀井委員、尾身委員、竹内委員
- (2) 事務局 古舘主幹、加茂主査、伊藤主査補
- (3) 傍聴者 16人

4 議題

- (1) 磯辺地区の中学校の適正配置の方向性
- (2) 次回開催日時・場所

5 会議資料

- (1) 平成21年度に算出した推計による磯辺地区の状況
 - (2) 平成21年度第2回（第9回）磯辺地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨
- ※ 委員よりの配布資料有り。

6 会議の概要

- (1) 高洲・高浜地区学校適正配置地元代表協議会の協議状況の報告について
10月19日に行われた高洲・高浜地区学校適正配置地元代表協議会「高浜地区分科会」において高浜第二小学校と高浜第三小学校の統合の合意がなされ、今後は統合の時期と場所等について協議されることになったことが報告された。質問・意見はなかった。
- (2) 磯辺地区の中学校の適正配置の方向性について
磯辺第三小学校の保護者対象アンケート調査結果等の報告があり、その後、協議が行われた。磯辺第三小学校の保護者は、中学校の統合については難色を示しているとの報告であった。協議会としては、「中学校を統合すべきという意見は多いが、磯辺第三小学校の保護者の理解を図るよう、教育委員会による保護者対象の説明会を開き、保護者の疑問や不安に答えていく」こととした。
また、小学校の統合の組み合わせや、小学校の統合と中学校の統合との関係等、磯辺地区の適正配置の方向性についての意見交換がなされた。
- (3) 次回開催日時・場所について
磯辺第三小学校保護者への説明会の後、会長・副会長及び事務局にて協議し、各委員に知らせることとなった。時期としては年明けの1月頃になることが確認された。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶

教育は保護者としては最大の関心事である。多数決では決めづらいことでもあり、納得に向けて話し合っていきたい。磯辺地区全体の子どもたちのことを考えていただければと思う。よろしくお願ひしたい。

(2) 報告・議題

報告 高洲・高浜地区学校適正配置地元代表協議会の協議状況について

<鳥越議長>

事務局に報告をお願いする。

<事務局>

前回報告した高洲第一小学校と第二小学校との統合については、9月9日に教育長に要望書が提出され、教育委員会としても要望書のとおり決定した。統合時期は平成23年4月、統合場所は高洲第一小学校の位置となる。新校舎として改修する間は、高洲第二小学校を仮校舎として使用する。

また、高浜第二小学校と高浜第三小学校との統合については、10月19日の高浜地区分科会において統合の合意がなされた。今後、統合の時期や統合場所について協議されることになる。なお、高浜第二小学校については、統合後は高浜中学校区となるが、現在磯辺第二中学校の学区となっているため、希望すれば磯辺第二中学校あるいは磯辺地区の統合中学校へも通学できることとしている。

<鳥越議長>

何か質問や意見はあるか。

(質問、意見なし。)

議題1 磯辺地区の中学校の適正配置の方向性について

<鳥越議長>

それでは議題1に移る。前回の協議会において、中学校の適正配置について協議を行い、中学校の統合に賛成する意見が多く出された。ただ、保護者からの意見の吸い上げについて、温度差があることもわかった。そこで、今年度の推計データ等新たな情報もおろし、十分に意見を吸い上げたうえで、今回の協議に臨むこととした。保護者代表の委員の皆様のうち、新たに提供できるご意見があれば、先ずご発言いただきたい。

<橋爪委員> (磯辺第三小保護者会会長代理)

本日、磯辺第三小保護者会会長の竹内委員が欠席のため、代わりに報告を依頼されている。

前回の協議会で報告した保護者に対するアンケート調査については、回収率が30%であったこともあり、今回新しい情報も加えて改めてアンケート調査を実施した。今回は80%の回収率であった。その結果等をまとめたものを配布したのでご覧いただきたい。

調査結果では、中学校の統合に賛成が28%、反対が39%、わからない33%であり、中学校の統合には反対という意見が強い状況である。これまで、保護者に対しては協議会ごとに状況を知らせ、統合の必要性についてはある程度の理解が得られてきたと思っていたが、予想外であった。

反対の意見は様々だが、「なぜ統合が必要なのか」という感情論が強い。特に、小学生の子どもしか持たない保護者にしてみれば、「統合すると磯辺第一中の位置になり、通学がたいへんになる」というイメージが強い。私自身は中学生の子どももおり、そうは感じていないが、保護者代表としては意見としてあったものを伝えるしかない。したがって、中学校の統合については反対の意向が強いとしか言えない。

<大浦委員>

中学校の統合について、他の小学校ではアンケート調査等を行っているのか。

<橋爪委員> (磯辺第三小保護者会会長代理)

磯辺第一小・磯辺第二小・磯辺第四小・及び磯辺第一中では、アンケート調査の結果、中学校の統合におおむね賛成だったと思う。

<高橋委員>

磯辺第三小の保護者は、磯辺第一中がそんなに遠いと思っているのか。なぜ、磯辺第三小だけが他の学校と異なる結果となるのかが理解できない。磯辺地区全体のバランスで考えていくべきだと思う。

<橋爪委員> (磯辺第三小保護者会会長代理)

保護者の代表は、保護者の意見を吸い上げ、この協議会で伝えていくしかない。この結果をもとに、もう一度話し合っしてほしいし、疑問や不安を解消してもらいたい。

<松岡委員> (高浜第二小保護者と教職員の会代表)

このアンケート調査の結果を見ると、磯辺第三小の保護者の方は統合中学校が磯辺第一中の位置になると想定しているように思う。仮に磯辺第二中学校の位置となっても反対なのか。

<橋爪委員> (磯辺第三小保護者会会長代理)

保護者の意見の中には、磯辺地区の真ん中に統合中学校をつくることはできないのか、磯辺第一小を中学校にできればよい、といったものもある。

<村上委員>

通学距離が大きなファクターとなっているということか。

<橋爪委員> (磯辺第三小保護者会会長代理)

特に低学年の子どもを持つ保護者はそうだろう。高学年の女の子を持つ保護者からは、安全性を考えて自転車通学を認めてほしいという要望もあった。

<石塚委員>

それは、中学校を統合するというものの本質とは異なる問題だろう。通学距離を問題にして統合の是非を問うのはいかがか。

<藤岡委員>

通学距離を問題にすると、この問題はまとまらない。それぞれの学校の立場でのエゴイズムを出さない方がよいだろう。

<大浦委員>

とりあえず、磯辺第三小の保護者は中学校の統合に反対ということで考えていくしかないだろう。

<別所委員>

通学距離の問題は一つの口実で、この問題を切実に感じていないことに問題があるのではないか。現在磯辺第三小は14学級、磯辺第二中も9学級であり、割と平穏な学校である。その中で、なぜ統合するのかということが正直な保護者の気持ちだろう。磯辺地区全体の状況を踏まえて考えてほしいのだが、現在の磯辺第三小の保護者には切迫感がないように思う。

<橋爪委員>（磯辺第三小保護者会会長代理）

免許外教員の発生等、教育環境の悪化は困るけれど、統合には反対という状況である。

<別所委員>

そういったことが本音なのだろう。

<山崎委員>

高浜第二小については高浜第三小との統合により高浜中学校区となる。希望者のみが磯辺第二中または統合中学校へ通学することになる。したがって、磯辺の統合中学校が磯辺第一中の位置になることについては議論していない。ただし、保護者との雑談の中で、「第一中の位置だと遠くなるから困るね」と、聞くことはある。

<村上委員>

基本的には、「磯辺第三小の保護者は中学校の統合には反対」ということで整理してはどうか。

<石塚委員>

アンケート調査の結果の中の「わからない」をどちらに入れるのかで異なるのではないかな。

<磯辺第二小保護者と教師の会代表>

磯辺第二小では、以前のアンケート調査において、中学校の統合の必要性については60%の保護者が賛成となっていた。これは、統合中学校の位置が磯辺第一中の位置と踏んでの結果だったと思う。地域の方たちには、現在の子どもたちの状況、社会状況等を踏まえて協議していただきたい。

<山崎委員>

もし、統合中学校の位置が磯辺第二中の位置になるとしたら、磯辺第二小の保護者の意向も変わってくるのではないかな。一中になる場合と二中になる場合との両方の場合で意向を調査すべきであろう。通学距離は、保護者としては一番の問題だろう。

<大浦委員>

アンケート調査は、その内容や方法により結果が異なるという問題はある。

<橋爪委員>（磯辺第三小保護者会会長代理）

現在の磯辺第一中と磯辺第二中とを比べると、第二中の方が生徒数も多いし、部活動数も多い。そういった中で、統合の必要性を感じていないというのが、磯辺第三小の保護者の実情だろう。

<水谷委員>

アンケート調査の質問内容だが、「統合中学校が磯辺第一中の位置となる」という表現はなかったのか。統合中学校が磯辺第一中の位置になると捉えられるようだと、反対の意見は当然多くなるだろう。統合校の位置については決定していないし、地域全体で統一した調査を行わないとまとまらないと思う。

<橋爪委員>（磯辺第三小保護者会会長代理）

保護者会の代表としては、代表としての責任を持ってこの問題に取り組んでおり、アンケート調査の内容についてもかなり吟味しているつもりである。ただ、共通の項目でのアンケート調査も必要だと感じている。

<鳥越議長>

前回の協議では、中学校の統合についてはおおむね了解と感じていたが、磯辺第三小のアンケート調査の結果を見ると、未だ決定段階ではないように思う。協議会としては、事務局に磯辺第三小保護者への説明会を開き、状況の報告と意見聴取を行ってほしいと思うがいかがか。

<橋爪委員>（磯辺第三小保護者会会長代理）

ぜひお願いしたい。

<鳥越議長>

今回は協議が前進するかと思っていたが、後退もいたし方ない。互いに納得して合意できるようにした方がよいだろう。

これまでの協議で、中学校の統合の必要性については、委員の皆様の間でおおむね共通理解が図られたものと考えていたが、磯辺第三小の保護者には、まだ理解を得られていない方々がいらっしゃる。したがって、この場で結論を出すことはできないだろう。事務局にはお手数をおかけするが、磯辺第三小の保護者に対して本協議会で協議してきた内容を説明し不安な点や疑問点に答えていただき、中学校の統合についての理解が得られるよう、説明会を実施していただきたい。

<事務局>

本協議会の総意として磯辺第三小の保護者に対しての説明会を開くということは了解した。磯辺第三小保護者代表の竹内氏、そして橋爪氏と打ち合わせを行い、日程等を検討したい。共通のアンケート調査についてはいかがか。

<村上委員>

項目を統一して行った方がよい。その際には、ぜひ回収率を高めてほしい。

<石毛委員>（磯辺第四小保護者と教職員の会代表）

磯辺第四小については、第1次の取組みの際に、保護者に対するアンケート調査を実施して統合の必要性は確認しており、その結果を踏まえて今回の協議に臨んでいる。第1次の取組みの課題についても協議していただいているので、改めてアンケート調査等を実施する必要性はないと考えている。

<事務局>

議論すべきことは統合中学校の位置ではなく、統合の必要性についてであろう。もし共通のアンケート調査を行うのであれば、「中学校の統合の必要性について」に限定して調査するということになるだろう。各学校の保護者代表の方と調整したい。

<磯辺第一小保護者会代表>

調整するというのは、「アンケート調査を実施する・しない」ということか。もし実施するのであれば、全学校で行った方がよいだろう。

<山崎委員>

高洲・高浜地区では、中学校の統合を先送りにして協議がまとまった。磯辺地区においても、切実感のある小学校を先に行ってはどうかと考える。

<大浦委員>

磯辺第三小の保護者は、統合中学校の位置の問題で反対しているという。統合中学校の位置が磯辺第二中の位置となる場合でも反対なのかを調べる必要があるのではないか。

<事務局>

通学距離が大きな要因の一つであることは否めないが、この問題の本質は、子どもたちの教育環境の充実と「教育の質」の問題である。将来的にみて、地域にどのような状況が生まれるのか、子どもたちにとってどのような教育環境が必要なのかを理解してもらうことが第一だと考える。

<橋爪委員>（磯辺第三小保護者会会長代理）

磯辺第三小の保護者は、「現状に満足しているのになぜ統合するのか」という思いが強い。もちろんすべての保護者がそうではないが、「磯辺第二中に進学させたい」という思いが強いのだろう。

<高橋委員>

磯辺第二中についても、現在の力（質）を維持できるとは限らないだろう。

<別所委員>

今回のアンケート調査の結果では、「賛成・反対」どちらも過半数を得ているわけではない。現状認識の段階だと考える。

<松岡委員>（高浜第二小保護者と教職員の会代表）

第1次の取組みの際に、磯辺第三小と高浜第二小との統合が提案された。その際には、高浜第二小の保護者の多くは「自分の子どもを通わせる高浜第二小が小規模校であり、解決すべき様々な課題がある」という意識がなかった。今回、小規模な状況が子どもたちの成長にどのような影響を及ぼすのかについて、教育委員会からの説明を聞いたり子どもたちの置かれている状況を認識したりすることにより、次第に統合の必要性への理解が図られてきた。そういった経緯を考えると、磯辺第三小の保護者の現状を理解しながら協議を進めるしかないと思う。

<鳥越議長>

今日は、もう少し協議が進展するかと考えていたが、この状況では、先ほど提案した通り説明会を開き、保護者の理解と不安の解消を図っていくことが必要だろう。磯辺第三小の保護者が納得した上で協議を進めた方が、解決が早いように思う。

本日の協議はこれまでか。

<事務局>

磯辺第三小の保護者がどんなことを問題にし、何を不安に思っているのかを聞くことは重要であると考えます。

本日は、中学校の統合の決定はできないが、せっかく集まっていたので、昨年度話し合ってきた小学校の統合についての協議を進めてはどうか。昨年度とは状況が異なり、磯辺第三小も将来的には小規模校になると推測されている。そういった状況も踏まえ、磯辺地区の適正配置について協議していただきたい。

<鳥越議長>

了解した。小学校も含めた磯辺地区の適正配置について意見を交わしたい。

<水谷委員>

昨年度の推計と今年度の推計との違いについて、もう一度説明してほしい。

<事務局>

昨年度の推計では、磯辺第三小は平成26年度まで12学級以上という適正な規模を保てるかと推測されていた。したがって、シミュレーション4（磯辺第一・第二・第四小を統合、磯辺第三小はそのまま残す）の方向で話し合うということが確認されていた。しかし、今年度の状況で推計を見直したところ、磯辺第三小は今後10～11学級となると推測される。これは、高洲4丁目にあるニチロの跡地の開発が停止されていること及びJFEナヴィールからの転居が影響している。今後、開発等が再開されれば昨年度の状況に戻ることも考えられるが、現在の推計ではそういった状況である。

また、現在磯辺第一小については、進学する中学校が二つに分かれているという課題がある。そういったことからまず中学校の統合を検討すべきという意見もあったと認識している。

いずれにしても、磯辺第三小の保護者の納得を得られないと中学校の統合の決定はできないが、今後、磯辺地区の適正配置について、どのように考えていくのかという議論が必要だろう。

<鳥越議長>

了解した。磯辺地区の適正配置について、委員の皆さんのご意見をうかがいたい。

<石塚委員>

この問題については、まず子どもたちの将来を見据えて考えていくべきことであり、磯辺第三小の保護者を説き伏せることとは次元を変えて議論していきたい。例えば、免許外教員の発生についていえば、免許外の教科を担当させられる教員にとっても負担は大きい。しかし、それは二の次三の次の問題であって、子どもたちにとって必要な教育環境について考えていくことが大切である。この協議会での協議が始まった時には、磯辺第二小の保護者代表の方から、「磯辺第二小はよい教育環境なのに、なぜ統合するのか」という投げかけもあった。それも、協議により次第に理解が図られてきたように思う。前向きに協議を進めていきたい。

<山崎委員>

シミュレーション4をもとに、小学校の適正配置について、まず考えていってはどうか。

<村上委員>

私は小学校の統合の方が必要性は高く、中学校については現行の6・3制、小中一貫教育、4・3・2制など様々な選択肢もあるので、小学校から統合すべきであると考えます。

<磯辺第二小保護者と教師の会代表>

以前行ったアンケート調査では、中学校を先に統合すべきという意見が多かった。2番目は小・中学校を同時に統合するという意見であった。

<磯辺第一小保護者会代表>

今年5月に実施したアンケート調査では、小・中学校を同時に行うという意見が52%であった。その理由としては、「同じ子どもが統合を二度経験しない」「間を置く理由がない」「小・中学校ともにできるだけ早い統合を望む」等であった。次に多かったのは、中学校を先に統合するという意見で、理由は「進学先が二つに分かれるという磯辺第一小の問題がすっきりとする」等であった。

<石毛委員>（磯辺第四小保護者と教職員の会代表）

中学校の統合を先に行った方がよいと思う。理由は、「同じ児童が小・中学校の統合を2度経験しない。」「中学校の部活動の問題や免許外の教員の問題が解決する。」「磯辺一小の中学校進学時の分離の問題を解消できる。」等、メリットが多い為である。

<黒澤委員>（磯辺第一中保護者会代表）

磯辺第一小と同じ内容のアンケート調査を行った。統合の順序については、「同時に行う」が一番多く45%、次に「中学校を先に統合する」、そして「小学校統合の一年後に中学校を統合する」であった。できるだけ早く、より良い教育環境を作ってほしいので、間をあけることは望ましくないという意見である。

<橋爪委員>（磯辺第二中保護者会副会長）

磯辺第二中としては、小・中学校を同時に統合は28%、中学校を先に統合が28%、小学校統合後8年後に中学校を統合が26%であった。「磯辺第二中の生徒が少なくなった時に統合すればよい」という意見が多いように思う。

<別所委員>

磯辺の中では、磯辺地区の中学校を一つにするという方向性が強い。磯辺第三小の保護者が反対していることは、磯辺第三小の置かれた地域特有の問題だろう。中学校の統合については、磯辺第三小の保護者への説明を行っていくということによいだろう。小学校の統合については、シミュレーション4の課題を検討していくことによいのではないか。

<吉岡委員>

学校教育のレベルアップには、学校の規模が必要である。子どもたちの切磋琢磨等を考えると、今の生徒の数はぎりぎりのところであろう。より良い教育、教育の質、学校のレベルを高める方向で考えたい。

<大浦委員>

中学生の方が、自分自身で先を見通し行動することもできる。中学校の統合を先に行ってしまうのか。

<近藤委員>

小学校の統合と中学校の統合とは関連性が高い。同時に行う方向で考えた方がよい。

<事務局>

昨年度、小学校の統合についてはシミュレーション4の方向で話し合うことが確認された。しかし、今年度の推計によると磯辺地区の小学校は規模が微妙なところであり、シミュレーション4では磯辺第三小が小規模校となる可能性が出てきている。それを踏まえると、シミュレーション3も含んで検討し直すことも必要かもしれない。磯辺地区については、小学校の規模や学区等、悩ましい状況にあることは確かである。

<関委員>

情報提供として、ニチロの跡地は高層住宅建設再開のめどが立っていると聞いている。

<磯辺第一小保護者会代表>

磯辺第一小としては、「まず小学校が分断されることなく、さらに卒業生が同じ中学校に進学することが望ましい」ということが前提だったので、もしそれが崩れるとなると、もう一度保護者に、そこに至る経緯、再検討の必要性等を説明する必要があるであろう。

<事務局>

仮にシミュレーション4の方向性で統合すると、磯辺第一小の子どもたちはすべて磯辺第一中に進学することになる。そうなると、磯辺第二中はその時点で7～8学級規模となる可能性がある。さらに、高浜第二小と高浜第三小とが統合し、高浜3丁目の子どもたちが抜けると6学級規模になる可能性もある。

<大浦委員>

小学校の統合を先に進めると、そういった課題が残る。中学校の統合を先に実施すれば、問題は解消しやすいであろう。

<磯辺第二小保護者と教師の会代表>

中学校の統合を先に行った場合、小学校の学区の再編成は可能か。

<事務局>

もし再編成が必要ならば、検討することになるだろう。

<鳥越議長>

前回ほぐれかけた糸が、今回は再び絡んだように思う。まずは、磯辺第三小保護者への説明を事務局にお願いしたい。次回は、その状況を踏まえて小・中学校のどちらの適正配置を先に行うべきか等、磯辺地区の適正配置についてさらに協議したい。

アンケート調査についてはどうすべきか。

<事務局>

磯辺第三小保護者への説明会の後、検討してはいかがかと思う。

<村上委員>

共通のアンケート調査は、実施する方向がよいだろう。

<鳥越議長>

磯辺第三小保護者への説明会の後に、その状況で検討したい。説明会により、解決できることを期待したい。

議題2 次回開催日時・場所について

<鳥越議長>

次回の開催日時は、12月7日としたいと考えるがいかがか。

<事務局>

磯辺第三小保護者への説明会を実施するとなると、12月7日の開催は厳しい状況である。少し時間をいただきたい。協議会会長、副会長、事務局で打ち合わせて、日程を調整したい。おそらく、年明けの1月頃の開催となるだろう。

<鳥越議長>

了解した。期日が決まったら、委員の皆様へ通知するというのでよいか。

(反対意見なし。)

<鳥越議長>

今回の協議は、尻切れトンボとなってしまったように思うが、今後、協議が前向きに進むよう期待したい。

(3) 連絡

<事務局>

- 先程の協議のとおり、磯辺第三小保護者に対しての説明会を年内に開き、年明けに協議会を開催する方向で調整したい。
- 議事要旨については、案を作成し、委員の皆様へ確認をいただいた上で完成版とし、教育委員会のホームページ上に公開する。各委員におかれては指定した期限までに確認して回答をお願いしたい。(メール可) また、期限までに回答がないものについては「了承した」として取り扱いたい。
- 欠席する場合は、事前に電話連絡をお願いしたい。また、代理出席も可能なので、その点も含めてご連絡願いたい。

(4) 閉会

<吉岡会長>

本日も、たいへん貴重な意見をいただいた。教育は親の最大の関心事である。この問題の本質は、通学の距離よりも教育の質の問題であろう。力を併せて考えていきたい。そのためには、皆様の力添えが必要である。今後ともよろしく願いたい。